第 16 回小諸新校再編実施計画懇話会

日時：令和５年９月４日（月）
18 時 00 分～19 時 30 分
会場：小諸市庁舎第１・第２会議室

＜次 第＞

１　開　会

２　挨　拶

３　新構成員自己紹介

４　会議事項

（１）第 15 回小諸新校再編実施計画懇話会のまとめ

（２）施設整備基本計画について

（３）開校に向けた検討事項の進捗状況について

（ワーキンググループ進捗状況、単位制・２学期制、プレ企画、服装）

（４）地域説明会について

５ その他

＜次回の予定＞

第 17 回小諸新校再編実施計画懇話会

（日時）11 月～12 月（予定）

（会場）未定

（内容）検討事項の進捗状況について　等

６　閉会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第１　県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第 138 条の４第３項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第２　懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

（１）学校像、教育方針等に関すること

（２）校地・施設・設備等に関すること

（３）管理運営等に関すること

（４）教育内容等に関すること

（５）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第３　懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、ＰＴＡ、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

２　会議に座長を置く。

（開催期間）

第４　会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和２年 10 月 26 日から施行する。

小諸新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

※○印は新構成員

	区分	氏名	所属等
1	自治体	田中　尚公	小諸市　副市長
2		山下　千鶴子	小諸市教育委員会　教育長
3		宮本　隆	北佐久郡町村教育委員会連絡協議会　会長
4	産業界	塩川　秀忠	小諸商工会議所　会頭
5		○ 新津　伸太郎	小諸青年会議所　理事長
6		清水　信	さくさく農園　代表
7	学識経験者	西村　廣一	元小諸高校・小諸商業高校　校長
8	地域	甘利　庸子	のぞみグループ　代表取締役社長
9		原　　啓明	佐久地域振興局　局長
10	同窓会	高見澤　敏光	小諸商業高等学校同窓会　特別顧問
11		鷹野　昭裕	小諸高等学校同窓会　会長
12	ＰＴＡ	○ 臼田　明美	小諸商業高等学校ＰＴＡ　会長
13		○ 伊藤　美保	小諸高等学校ＰＴＡ　会長
14		○ 西田　祐恒	小諸市ＰＴＡ連合会　会長
15	学校関係者	深沼　浩	小諸市校長会　会長
16		相原　修	小諸市内中学校代表　校長
17	再編対象校	伊藤　亜恋	小諸商業高等学校　生徒会長
18		坂井　洸太	小諸商業高等学校　生徒会副会長
19		名取　朋哉	小諸高等学校　生徒会長
20		糸井　柚菜	小諸高等学校　生徒会副会長
21		坂口　健之	小諸商業高等学校　校長
22		原　　周一郎	小諸商業高等学校　教諭
23		井村　敏明	小諸高等学校　校長
24		木住野　修平	小諸高等学校　教諭

事務局

小諸商業高等学校		小諸高等学校		高校再編推進室	
辻　　隆秀	教頭（事務局長）	細萱　裕樹	教頭（副事務局長）	柳澤　弘蔵	主幹指導主事
原　周一郎	教諭	木住野　修平	教諭	原　多恵子	主任指導主事
大槻　高範	教諭	大澤　佑介	教諭	金井　大地	主任
植原　崇裕	教諭	井出　玲子	教諭		
郷津　祐介	教諭	坂口　俊夫	教諭		

第15回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日 時	令和５年（2023年）５月30日（火）　18時00分～19時50分			
会 場	小諸市庁舎　第１・第２会議室			
出 席	懇話会構成員　19名			
欠 席	懇話会構成員　４名		**傍聴者**	傍聴　６名（報道１社）
事務局	小諸商業高校	辻教頭（事務局長）、大槻教諭、植原教諭、郷津教諭		
	小諸高校	細萱教頭（副事務局長）、大澤教諭、井出教諭、坂口教諭		
	県教育委員会	柳澤主幹指導主事、金井主任		
当日資料	○次第、開催要項、構成員名簿、開校までのスケジュール、校名変更について、WG進捗状況 ○ＮＳＤプロジェクト進捗状況（ＮＯＫＳ作成） ○地域連携について（小諸市企画課作成）			

会議事項
(1) 第14回懇話会まとめ、(2) 開校までのスケジュールについて、(3) 開校に向けた検討事項の進捗状況について、(4) 新校との地域連携協働について

意見交換

【新校との地域連携協働について】

◆コーディネーター、地域連携協働室について

○商工会議所、商店会、連合会、町会等、いろいろな団体に声を掛けられるコーディネーターが必要。市か県がお金をつけなければならないと思うが、コーディネーターがいないと地域との連携は難しいのでは。

○コーディネーターが置かれることで学校側の負担も軽減される。それにより、新たなアイディアや違った取り組みが生まれたりする。学校と連携できるシステムは必要。

○コーディネーターの役割が、学校のニーズと地元を結びつける働きとしてとても重要。ただ、誰でもいいというものではない。また、どういう役割を担っていただくのかも丁寧に考えねばならない。

○地域と協働していろいろな学びをしていく際、教員は、決してそういう仕事に慣れているわけではないので、ハブとなる地域連携協働室は必要。

◆地域と連携協働した取組について

○高校で商工会議所の会議を開くことが可能。学校に行って子どもたちと話して、それをまちづくりに活かすという形ができればよい。

○学習塾は経営をしていかなければダメだと思うので、どこまで協力してくれるか気になるところ。

○生徒と教職員の負担のかからない状況の中で継続的な取組をしていきたい。例えば、地域の方々とのスポーツ交流、生徒を講師とするパソコン教室や音楽レッスンを授業の一環として行い、単位認定する等。

○仕組みづくり、仕掛けづくりは学校主体でやるしかない。例えば、授業の一環として、小諸の歴史やまちづくりを地域と生徒が一緒に学び、生徒には単位を認定し、地域の方には表彰状を進呈する等。

○小高連携では、小学生からすると高校生のお兄さん、お姉さんに「教えてもらう」みたいな部分が強くなってしまう。一緒に考える、協働して行う等、子どもたちの学びにつながるとよい。

＜「本物に触れる学び」について＞

○e-Sportsの専門的な方の話が聞けるのは面白い。

○多様なことを学べ、自分から将来の夢の選択肢を探しに行けるというのは、今までの学校にはない強み。

○人生をどう歩むのかを、こういう学びから受け止めてもらいたい。

◆その他

○小諸市の意気込みを感じる。これだけ強い応援団がいることを両校の先生方は肝に銘じてやって欲しい。

○小諸市の前向きな取組は、県下のモデルになっていく。協力していきたい。

○「令和８年から」ということでご提案いただいたが、令和８年からしっかりとやっていくために、令和６年から（一つでも構わないので）この取組を入れていきたい。

施設整備基本計画書（案）より

配置計画

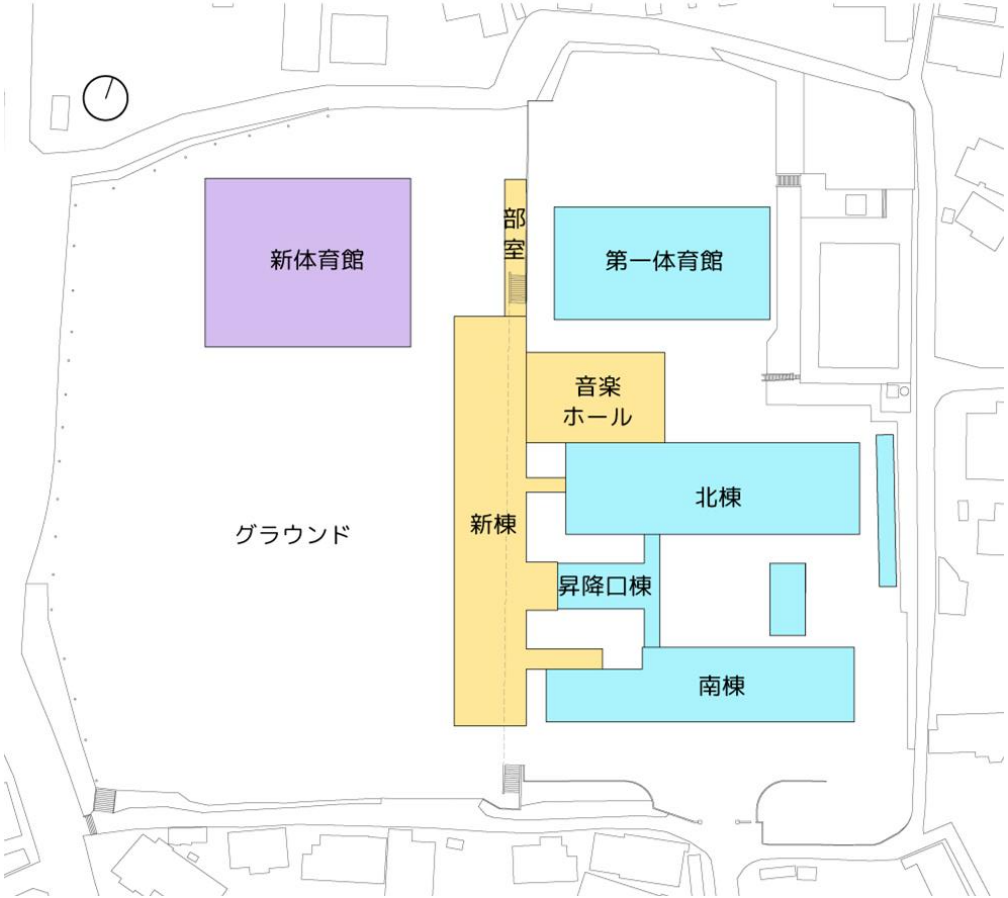
合計6回のWS(ワークショップ)、学校内ワーキンググループ、NSD会議からの意見交換などの結果、以下の主な方針を決定した。

①教室配置：普通教室は3教室ずつグルーピングして、新棟2階および南棟2～4階に配置する方針とした

②大体育館：大体育館を新設する

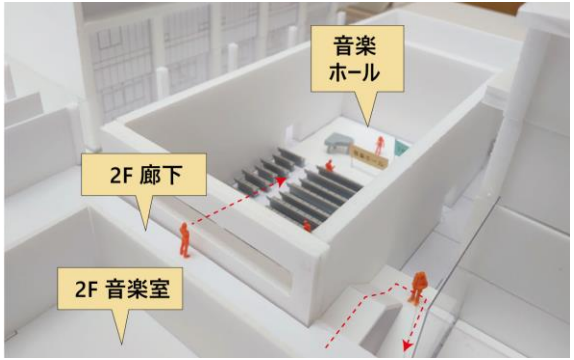
③音楽ホール：楽器運搬と地域開放の観点から、北棟北側の1階レベルにホールを配置する方針とした

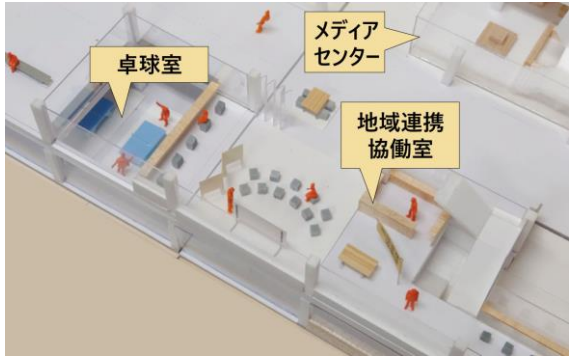
④大型バス：体育館の配置パターンと合わせて大型バスがどの案でも転回可能であることを確認した



施設整備基本計画書（案）より

平面計画





音楽ホールは、音楽科の授業や演奏会としての使用のみならず、全校・地域の活動拠点としての利用も想定し、より多様な学びと地域との交流を促す場として検討する。新棟2階中心に配置する**音楽科諸室**や2階廊下からも音楽ホールの様子が見えるような計画とする。

地域連携協働室は、地域連携の拠点として、校外から地域住民のアクセスがしやすく、校内の諸機能との連携が取りやすいコモロピロティの中心部に置き、学びの相乗効果も期待する。地域連携協働室に隣接して**購買・生徒ラウンジ**も計画する。

コモロピロティは、開放的な半屋外空間で、グランドと校舎をつなぐと同時に既存各棟の妻面（端）と接続する。コモロピロティ全体としてさまざまなスケールのイベントや学習活動の場となる。

平面計画

施設整備基本計画書（案）より

運動系諸室：地域連携協働室と連携した運用ができる**卓球室**、2クラスが同時に授業展開や全校集会が行える**大体育館**などを計画する。

普通教室は既存校舎南棟の2階から4階に配置し、普通教室まわりには、ひとりで学んだり、複数人で学ぶことのできる普通教室のサイズ感とは異なったな学びのスペースなどを**FLA（フレキシブルラーニングエリア）**として計画する。

その他、既存校舎では各科の職員全員がまとまって執務できる職員スペース＝「**大職員室**」を計画し、職員間でも３科の融合が図れるような計画とする。

また、調理教室、理科実習室、デザイン／美術室、書道／被服室などの特別教室をまとめ、「**クリエイティブラボ**」として各室が関係をとりながら活用できるものとする。

既存昇降口棟1階は、昇降口を撤廃した上で、ここを中心に図書やICT機器などを揃えた**メディアセンター**として計画する。

小諸義塾高校(仮称)　WG進捗状況

WG	検討項目	WG進捗状況
A：学校運営検討	3つの方針・グランドデザイン	・新校立ち上げの際に作成したイメージ図をブラッシュアップし、グランドデザインを作成している。 (第９回地域懇話会資料)
	校歌	・検討中
B:教務関係	学校説明会	・R５年度　学校説明会予定 11/2(木)　佐久平交流センター　第５会議室(192名) 11/6(月)　上田市中央公民館　大会議室(160名) 11/7(火)　小諸市市民交流センター　ステラホール(234名)
	コース制等	・単位制として、どの程度の幅を持たせるのかを検討している。 ・３科の単位制のイメージを共有する。
	年間行事検討	・WG-Fと連携をとりながら大きな学校行事について検討を進める。
	使用教科書	・教育課程と連動し、３年次進路選択を考慮した教科書を選定する ・タブレット（Chromebook　or　iPad）の選定
	小中学校向け広報	・11月に実施される学校説明会の広報を行う。
C:進路・学習指導	教育課程	・単位制、２学期制の職員会議提案（※資料１）
	探究的な学び	・職員アンケートを実施し、「プレ企画」として統合前から、どのような形で両校で学びを共有できるのか、先生方からアイディアを出していただいた。（※資料２）
	地域連携	
	教科・学科横断型の学び	
	本物に触れる学び	
D:校舎・施設	音楽棟施設	・8/23 WG-D実施
	既存校舎の設備	
E:生徒会	生徒会組織	・生徒会組織については現在の小諸高校の組織形態を基本とする。
	部活動	・R6年度から運動部は合同チーム結成が可能となるため、各クラブで検討を始め、生徒会係で集約を行う。 ・合同練習の開始時期、練習場所、指導体制などの検討を進める。
	文化祭	・文化祭の交流を検討している。
	服装（含：制服）検討	・資料は別紙参照(※資料３）　現在、職員の意見を集約している。
F:行事検討	文化祭	・修学旅行or研修旅行は目的地・実施時期・期間など３科連携でコンセプトがあったほうがいい ・R6入学生が３年時、スマイル小商店街の役員になる。 ⇒文化祭との関係など課題の整理が必要 ・スマイル小商店街は課題研究選択者を中心に行うなど、実施方法について検討している
	修学旅行・研修旅行	

【資料１】WG-C 進路・学習指導

(1)単位制導入によるメリットと課題

【メリット】

・多様な生徒を受け入れることができる。【新校の基本理念】

・他科の科目を履修することができ、生徒たちの興味、関心に合わせた学びができる。

・生徒の進路希望に合わせた科目選択が可能となる。【教員の加配あり】

・１年次は３科ともほとんど必履修科目で埋まるが、科ごとや進路分野ごとの学校必履修科目をどの程度にするかによって、履修の自由度が変わる。

・商業科、音楽科は専門科目を25単位以上の修得が、専門科の卒業として必要となるため、選択の幅は少なくなるが、現行の教育課程よりも学科間選択が可能になるなど選択の自由度はかなり上がると考えられる。

【課題】

・必履修科目の履修を認める基準を考えておく必要がある。

例）履修を認めるためにどのくらいの出席数にするのか

修得を認めるための出席数をどのくらいにするのか

学年をまたいだ履修を可能とするのかどうか　　など

・生徒の空き時間、空きコマが生じた場合、その扱いや生徒の居場所をどうするのか。

・履修と修得の分離により、カリキュラムの煩雑さが増す可能性がある。

・選択科目が増えることで時間割編成が可能かどうか

(2) ２学期制導入の際の学科共通選択科目の展開例

商業科２年＋普通科２年文系

	前期	後期
A	数学Ⅱ　４単位	
B	数学基礎 ２単位	マーケティング ２単位

※数学基礎は学校設定科目とする

・AかBのどちらかを選択する。

・数学Ⅱを選択した場合は通年で数学Ⅱの学習を行う。

・数学基礎＋マーケティングを選択した場合は、前期は数学基礎、後期はマーケティングの学習を行う。

(3) ２学期制導入によるメリットと課題

【メリット】

・単位制の導入と合わせて考えたときに、半期での単位修得が可能になる。

・半期での単位認定が可能になることによって、生徒たちの興味・関心にあわせた教育課程の編成が可能となり、生徒の多様なニーズへの対応ができるようになる。

・単位数の少ない科目については半期で４単位集中して学習したほうが学習効果が大きくなると考えられる。

・考査の回数を減らし、単元別テストなどを導入することによって、日々の学習の成果が評価され、学習の質が向上する。

・半期での授業ができるため、将来的に大学などとの連携がしやすくなる。

・始業式・終業式の回数を減らすことができ、授業時間数が確保しやすくなる。

【課題】

・夏季休業前の三者面談の際に、成績が確定せず、仮の成績によって、３年生の進路指導をしなければならない。

・半期の単位認定を認めた場合、講座数が増えて、時間割が複雑になる可能性がある。

【資料２】WG-C 進路・学習指導

「プレ企画」として、統合前から両校で共有できる活動はどのようなものが考えられるか、
職員からアイディアを出してもらった。

A　学び

①自分の選んだ分野ごと（教育、語学、医療等）学問探究行う（2、3年合同でも良い）

②新しい教育プログラム「探研」･･･　探究と課題研究を融合した柔軟に単位履修を自己設定できる科目一人の生徒に一人の教員がサポーターについて、探究的課題研究を行った成果を単位として認定する。

③３科の生徒が一緒になって考える探究学習への取り組み。一つのテーマで数年間継続して研究ができれば、大きな成果が期待できる。「小諸市のレストランで、どのような料理を提供して、どのような音楽を流したら、売上高にどのような影響が出たのか」を普通科生徒が食材、調理方法などを考え、音楽科の生徒がその料理に合う音楽を考え、商業科の生徒がそれをどのように売り出すのか、売上に影響があったかを考えるといった形で、それぞれの科の生徒が同じテーマで違った角度から課題を考える授業を展開する。さらに小諸市との地域連携を絡めていけると、小諸市に様々な面で貢献できる可能性がある。毎年、継続して同じテーマを研究することにより、データが蓄積され、さらに効果的な研究を進めることができる。

④黒板を使わない授業。アクティブ・ラーニングしかない授業を商業科で実施して、シラバスに記載。普通科の生徒も選択できれば楽しめそう。マーケティングや観光ビジネスなど。「アクティブ・ラーニングしかない」がポイントです。

⑤自分の好きな教科を選び、その教科ごとにグループにした学年を超えた縦割りのゼミ形式で、その教科に関わることについて探究していく（授業では教科書の進度の兼ね合いもあり触れられない事柄（専門性の高い内容や教科と日常が深くかかわっている内容など）を扱う）→総合的な探究の時間の１単位分を年間を通して使うor期間限定（３か月間のみ）　３か月×４回で４教科のことに触れるでもよい。

⑥両校によるディベート　賛成反対ともに両校の生徒が入り、両校生徒が同じチームでディベートを行う。テーマ設定や打ち合わせ（対面orオンライン）は事前に行う。

⑦全教科が同じテーマで授業を行う。例えば、「卵」というテーマで国語では卵に関係する文学を読む、商業では「卵」の価格高騰について学習する、理科では鶏についての学習をするといったように、同じテーマでも教科の切り口が違えば、違いが出ることを生徒に学習させ、多様な考え方や教科の特徴について学ぶ機会を与える。新校では学科連携により、同じ授業を複数教科の教員が担当することにより、より深い学びが期待できる。さらには、その授業案や授業計画を他教科に

B　地域連携

①まちたね広場を使った高校生主催のイベント開催（各科で代表を決め企画・運営。物品販売、文化部の発表、地元飲食店にも参加していただくなど…）

②普通科で行うデュアル実習（3年次からだと単純な就職斡旋のような形になりかねないので、2年次から実施し、働くことを通して学びの必要性を自覚し、学校選びのきっかけになると良い）

③探究学習コースとデュアルシステムコースに分けて、いずれかを選択し行う

④地域の職業の方をお招きして特別講義

⑤生徒が先生になって、地域の方を対象に自分の得意とするテーマで授業を行う

⑥「探研」

⑦小諸マップの作製と披露する会

⑧地域連携室で市民大学を授業時間帯に開催し、地域の方、生徒も参加。選択授業の一つとする。ということを将来的に想定して、まずは年に１，２回でもよいので学校のホール等で実施してもらい、生徒も参加できるようにする。話題によっては、両校の教員が講師となる。

⑨地域の方々向けに、音楽科特任非常勤講師によるミニコンサートと○○のレッスン

⑩地域の幼児を招いた交流事業（将来的には芝生の上で！）

⑪〇学年次に、両校の生徒が小諸市の課題や理想とする小諸市を挙げ、その課題に対する方策や理想の実現方法を高校生が考えて企画・提案する探究学習「小諸ウェルビーイング」の実施

⑫「高校生議会」の実践　市議会議員と連携した取り組み 例えば小諸市では市議会だよりを定期的に発行している。その中で興味のある分野について、実際に市議の方と懇談し、課題等について調査。地域連携コーディネーターを活用し、必要な調査やフィールドワークを実施。高校生の視点で要望等について具体的にまとめ市議会へ意見書を提出する。

C　行事

①進路行事を一緒に行う（企業フェスや大学模擬講義など）

②小諸高校の総探と小諸商業のビジネス探究プログラム、課題探究の合同発表会（生徒が運営を行う）

③新しい教育プログラム「探研」から派生【浅間山探研】　･･･ドローンを飛ばして、浅間山火口を観察していく所から、科学的、文化的に浅間山を中心とした地域に浅間山の新しい価値を創生する。

④音楽科演奏会での商業科生徒販売、休憩中などの飲食物提供。定期演奏会の際にスマイル小商店街で仕入れた商品を商業科の生徒が会場で販売するなどの、 イベントをジョイントさせる。
また、定期演奏会のプロデュースを協力して行う。

⑤スマイル小商店街での音楽科生徒の演奏。

⑥両校合同での合唱コンクール、または小諸商業高校の合唱コンクールへの優秀クラスの参加発表。

⑦スマイル小商店街を新校でも継続する。普通科の生徒も含めての取締役会を編成して学校全体で取り組む。全員が全日参加でなく土日のうち１日だけの運営など柔軟な関わり方も検討。 新校になるまでは、小諸高校文化祭に「スマイル小商店街」のブースを作る。また、スマイル小商店街には「小諸高校の活動紹介」などのブースを作る。あくまで生徒中心で。うまくいかなくても良いのでやってみることが大切。

⑧学年クラスマッチ　両校R６年度入学生が合同で学年クラスマッチを実施。企画段階から両校生徒を交流させ、運営も生徒中心で行う。小諸高校体育施設が利用しやすい修学旅行期間が良い。

⑨学年陽だまりトーク　両校R６年度入学生が合同でテーマごとにグループディスカッションを行う。テーマ例として「３年生になった時の〇〇」「今後部活どうしたい？」等、両校で生活している現状で感じている再編への思いを共有する企画。

⑩部活対抗戦　両校で共通する部活での対抗戦を両校の体育施設を利用して行う。行事日として設定し、午前午後で分けて必ず出場or観戦する。両校で誰がどのような活動をしているのか知る機会となる。

【資料３】WG-E　生徒会

〇服装（含：制服）検討

(1)生徒アンケート結果集計

生徒＋保護者	絶対にあったほうがいい	あったほうがいい	どちらかといえばあったほうがいい	合計
全体	7.7%	16.5%	28.2%	52.4%
小諸	4.1%	12.5%	29.5%	46.1%
小諸商業	15.5%	25.3%	25.3%	55.6%

生徒	絶対にあったほうがいい	あったほうがいい	どちらかといえばあったほうがいい	合計
小諸 普通科	3.9%	11.6%	24.8%	40.3%
小諸 音楽科	4.3%	12.8%	27.7%	43.5%
小諸商業	11.7%	22.4%	26.8%	60.9%

保護者	絶対にあったほうがいい	あったほうがいい	どちらかといえばあったほうがいい	合計
小諸 普通科	4.9%	11.5%	40.2%	56.6%
小諸 音楽科	3.1%	25.0%	40.6%	68.7%
小諸商業	35.0%	40.0%	17.5%	92.5%

(2)標準服の制定

・商業科、音楽科は制服があってもよいと考えるが、普通科は必要ないという意見が多く、
全体で制服を作るのは難しい。

・多様な生徒の価値観に柔軟に対応できることを可能とし、自ら考え選択することができるように
制服ではなく標準服としたい。

◆R7入学生より『標準服』を導入する

・ブレザー、ネクタイ(金具式ではなく、自分で縛るタイプ)は入学生全員が購入する。

・スラックスは希望者が購入する。ただし、商業科は全員購入する。

・スラックス（スカートでも可）、ワイシャツは各自でブレザー、ネクタイに合うものを選んで着用する。
色の指定もしない。始業式、終業式、卒業式など行事日には全員がブレザー、ネクタイを着用する。

・ブレザー、ネクタイは男女共通のものにする。

・ブレザーは日常的に着用してもよい。［例］ブレザー＋ポロシャツ＋チノパンツ

☞日常的に着ることができれば「標準服」の認知度が上がる。

(3)制服導入の時期と指導体制について

	R6	R7	R8
小諸	※私服 →	→	→
		標準服購入 →	→
小諸商業	※小諸商業の制服購入 →	→	→
		標準服購入 →	→

〇R6入学生について

・小諸高校は私服、小諸商業高校は小諸商業の制服を購入する。

・商業科の生徒は３年間、小諸商業高校の制服を着用する。

・Ｒ８年度には小諸義塾高校の３年生となるが、小諸商業の制服は引き続き着用できる。

・商業科生徒は式の時は制服を着用する。

・普通科、音楽科生徒は標準服を持っていないため、式の時には、その場にふさわしい服装で来るように指導する。

参考資料

単位制について

単位制高等学校は、学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる。昭和 63 年度から定時制・通信制課程において導入され、平成５年度からは全日制課程においても設置が可能になった。

単位制の特色

〇自分の学習計画に基づき、自分の興味、関心等に応じた科目の選択、学習が可能
〇自分のペースで学習に取り組むことが可能
〇希望の進路に合わせた授業選択が可能
〇少人数クラス、習熟度学習などでの授業展開が可能
〇高い目的意識が必要

学年制	単位制
〇１つの学年で 30～33 単位程度、３年間で 90～99 単位程度を修得して卒業 〇基本的には、学年やコース内で同じ科目を履修し、卒業時の修得単位数も同じ。 〇学年ごと必要な単位数を修得したら、進級・卒業することができる。	〇卒業単位数については、学校ごとに下限を設け、それ以上の単位数を修得することで卒業となる。卒業時に修得した単位数は個々で異なる。 〇自分の興味、関心や進路に合わせて時間割を自分でデザインする。 〇授業がない時間（空き時間）には、探究を深めたり、自分の進路のための時間に充てたりすることができる。

※学習指導要領では、卒業までに 74 単位修得することを卒業要件としている。

（参考）単位制高等学校について

◆学校数（文部科学省「令和４年度　学校基本調査」より）
全日制　731 校（4196 校のうち）、定時制　86 校（172 校のうち）

◆単位制を導入する高校の特色
〇進学に重点を置く単位制（進学重視型）
〇大学進学から就職まで幅広い進路希望に対応する単位制（多様性対応型）
〇その他
・地域協働に係る学習（地域貢献できる人材の養成）に重点を置く単位制
・スポーツ総合専攻及び美術・工芸専攻を設置する単位制
・離島留学制度の導入に伴い単位制へ改編

小諸義塾高校（仮称）　地域説明会について

小諸商業高校・小諸高校
高校再編推進室

1　趣旨

令和６年度の小諸商業高校及び小諸高校入学生は、令和８年度、両校の一斉統合による小諸新校開校時の３年生となることから、令和６年度入学者選抜の実施前に新校の概要等について周知する。

2　主催

小諸商業高校及び小諸高校

3　日時と場所

○11 月２日（木）　佐久平交流センター　第５会議室（192 名）
○11 月６日（月）　上田市中央公民館　大会議室（160 名）
○11 月７日（火）　小諸市市民交流センター　ステラホール（234 名）
※（　）内の数字は、各会場の収容定員
※開催時間は、いずれも、18 時 30 分から 20 時まで

4　対象者

中学生・小学生及び保護者、教職員等（小諸新校に関心のある方）

5　内　容

(1) 新校の概要
- 教育目標、３つの方針、グランドデザイン等
- 各学科の学び、学科・教科横断型の学び
- 地域との連携協働
- 制服、行事、クラブ等
- 施設整備
- 今後のスケジュール

(2) 令和６、７年度の小諸商業高校及び小諸高校入学生への対応（一斉統合の手順）